



NWS通信

Nurse(看護)・Wellbing(福祉)・Special(専門)

第 68 号

平成24年3月10日

発行所

駒沢看護保育福祉専門学校

岩見沢市9条西3丁目 〒068-0029

TEL (0126) 25-0300番

印刷所 K&K 組合印刷

再・宗教ということ



学校法人駒沢岩見沢学園

理事長 山本 光風

人間は死を発見することによって必然的に宗教への信仰を持つに至った。両者は不即不離の関係の中で歴史を刻んできたのである。形態は多様だが、死生の根本に関わるものとして否応なしに今日に及んでいるのである。

これらの宗教の中で、民族や国家の伝統と深く関係しながらその地に根づいたもの(ユダヤ教、ヒンドウ教、儒教、道教、神道など)を一般には民俗宗教と言っている。これに対して民族や国家を越えて世界的な広がりをもって多くの人々に信仰されているものを、世界三大宗教(キリスト教、イスラーム教、仏教)と呼んでいる。

昨年世界の総人口は70億に達した。宗教人口の推定ではキリスト教33.0%、イスラーム教22.5%、仏教6.7%、ヒンドウ教13.6%、中国民間宗教6.6%、その他17.6%の比率といわれている。

現在高校で使用されている関連教科書の内容に手を加えて、三大

宗教の比較概要を表にまとめると次のような具合になる。

	キリスト教	イスラーム教	仏 教
開 祖	イエス(救世主)	ムハンマド(預言者)	ゴータマ=ブッダ(覚者)
崇拜対象	父なる神(一神)	アッラー(一神)	諸仏
発祥年	世紀零年頃	610年	前5世紀前後
布教期間	1年~1年半	22年	45年
聖 典	旧約聖書・新約聖書	クルアーン(コーラン)	仏典(スッタニパータなど)
教 義	神への愛 隣人愛 三位一体	六信・五行 神への絶対的帰依 偶像崇拜禁止	四諦説・八正道 縁起の法
愛の基本	アガペー 神の人間への愛 人間の神と隣人への愛	隣人愛 喜捨・もてなし	慈悲

挙げた表はかなり強引なところもある。異論や否定論が出るのは当然だが、一つの目安として参考にしてもらえればありがたい。このようにして誕生した三つの宗教は、時代の波にもまれ変遷してきたが、基本となる部分は不変のものとして現代に引き継がれてきたのである。

宗教の凡そを理解してほしい。

新人立てり



駒沢看護保育福祉専門学校

学校長 木原 キヨ子

学生の皆さんが、専門的な学習に日夜精進している姿を思い、何をもって皆さんを応援出来るであろうかと自問している時、折しもNWS通信文を通して私の考えを伝える機会を得ました。本校は駒澤大学(開学百二十年)の建学の精神に基づき開設されたこともあり、著書「駒澤大学の歴史と人物」を読みまして校歌を唄いますと、北原白秋の若人(学生)に対しての期待と寛大な心は、時代を越え、今を生きる人々の心に響きます。希望して来られた保育士、看護師を目指す皆さんの道しるべを示しております。

新人期せよとは、限られる在学中の約策ごとや学びは、澄みきった精神によって培われる。かけがえの無い自己の真実に対する確認と生命の尊厳をお互いに認め合えること(信)。成実な心を持つて学業に励み、自己形成の道のりを限りなくひたむきに歩みなさい(誠)。人が歩むとは、慈悲の営みであり、自分の主体性を確立しつつ、人間社会の連帯感を学ぶと共に慈しみあうことである(敬・愛。信成敬愛を自ら行動できる皆さんに成長することを願っています。これから先の社会は鋭く変化するであろうが、校旗は切れ切れになっても、尚皆さんの向かって行く先を導き光り輝き続けます。皆さんの青春を謳歌することを祈念いたしております。

新人立てりとは、新しい社会(学校)に出られたなら、其にしっかりとさだめ、高く昇りなさいと、呼びかけているのです。時代は、飛躍・発展している、その現実を捉へなさい。学びの始まりは、母校(我々校旗は雲と起れり)からであると主張しています。

新人勢へとは、物事の成り行きを熟知した人は、人々に影響を与えられる力を持つて居るのである

保 育 科



進級にあたって

保育科二年 茂野 尚子

保育士になるという目標を持ち、この駒沢看護保育福祉専門学校に入学し、二年が経ちました。私はこの二年間という短い月日の中で、たくさんのことを学びました。保育園実習、施設実習、オペレッタなど多くの人と関わり、人との繋がりが、思いやりの大切さを知ることができました。学習が進むにつれて、責任の重さや、勉強の内容も深まり難しくなってきましたが、一年生の時に身に付けたことが、勉強の中で生かされていると

思います。

三月で二年間の保育科も終了し、四月からは三年生専修科に進級することになります。一年生と二年生の頃とは違い、三年生では求められるものが大きく変化すると思います。三年目は学校生活と同時に就職活動も重なってきます。また、初めての幼稚園実習もあり、不安も沢山ありますが、友人達と切磋琢磨し、様々な面において成長することができるように、色々な活動に取り組んでいきたいと思っています。



一年を振り返って

保育科一年 藤田美奈子



保育科に入学してからを振り返ると、毎日が充実し時間のたつのがとても早く感じました。最初は社会を一度経験してから学校の生活に学業の心配や休まずに通う事など不安がありました。しかし、先生方の日々の指導や学生同士の励まし合いで多くの困難を乗り越えてきました。初めてのピアノ試験ではクラスの人達が苦手の譜読み等を助けてくれました。また、オペレッタでは先生方の助言や指導のおかげで完成度が高まり、その中で学生同士が協力し合う事や、励ましたり支えたりと絆が深まり、本番はとても充実した気持ちで終える事ができました。実習では、学校での学びが実際のものとなり体験を通して保育士としての役割や子どもの姿を実感しました。そして反省点も沢山見つけたり課題が

明確になりました。これからの学校生活では今まで色々な方達に支えられて乗りこえた事に感謝し、保育士資格取得を目指して学んでいきたいと思っています。

実習を終えて

保育科二年 帯川 理香

二年間の学生生活の中で、保育園と施設での三回の実習を行い、沢山の事を学ぶ事が出来ました。

その中でも、児童養護施設での実習は、私にとってもとても勉強になった経験でした。実習を行う前まで私は、施設にいる子ども達は親と一緒に暮らす事が出来ない為かわいそうだと思っていました。しかし、実際に施設に実習に行き学んだ事は、施設に入所した事で救われた子ども達が多くの事でした。子ども達は、沢山のきまりの中で集団生活をしていましたが、指導員の暖かい愛情を受け、一人一人が大切にされ生活している様子を見る事が出来ました。

私は二週間、家族と離れて実習に行く事に不安と戸惑いもありましたが、それでも児童養護施設で実習を行いたいと強く思い行った実習でしたので、沢山の事を吸収する事が出来たと思います。この実習は私にとって、一生の宝となった経験でした。



看護第二科

卒業にあたって

15期生 二学年 中里 浩貴

入学してからあつという間に二年が立ち、卒業を迎えようとしています。入学した時は、「二年間やっていけるのか」不安がありました。授業やテスト、演習などが続き大変と感じ、二年生になると半年間の実習があり、更に厳しい日々が続きました。実習中は、患者さんに必要な援助を考え計画を立てたり、実際に援助することがとても難しく、失敗したりくじけたりすることがありました。しか



し、患者さんからの「ありがとう」の言葉やクラスメイトの励ましを受け、実習も乗り越えることができました。卒業まで続けることができたのは、教務の先生方やクラスメイトのおかげであると感じています。また、家族の応援や励ましもあり、沢山のの人に支えられてきたことをとても感謝しています。卒業後はそれぞれの道を進みますが、二年間学んだことを忘れず、患者さんのことを一番に考え、患者さんの気持ちに寄り添うことができる看護師を目指していきたいです。



卒業にあたって

15期生 二学年 尾田貴巳恵

入学してからは、看護過程のグループワーク、テスト、実習、看護研究と次々と課題があり、この二年間はびっくりする位早く感じました。特に実習は、看護学生にとって一番と言って良い程に大きな課題です。実習期間中は、眠れない日々が続くこともありました。悩み、苦しむこともありましたが、しかし、悩んで苦しんだこと以上に得ることも沢山あり、「看護っていいなあ」と改めて感じたことを覚えていきます。

二年間、二科の十五期生として仲間や先生達と過ごすことができ、幸せでした。十五期生は明るく、



時に騒がしくなってしまうこともありましたが、とても仲間思いで、優しい人達です。卒業後は皆、離れ離れになってしまうので寂しいですが、それぞれの場で、それぞれの持ち味を生かした看護ができればいいな、と思っています。

一年間を振り返って

16期生 二学年 前田 龍生

期待と不安を胸に抱え、入学してからあつという間に一年が過ぎようとしています。

私は准看護師として約二年間の臨床経験を送った後にもう一度、学生生活を送ることになりました。実際に学習してみても、准看護師と正看護師との大きな違いは、より深く患者さんの状態についてアセスメントし、援助の根拠をもつことだと感じました。これまでの学びの中で一番大変だったのは、看護過程です。看護過程では、一般論と実際の患者との比較・分析をして、より患者の個性性に合わせたアセスメント・援助方法を考えることが一番大変でした。私の課題は、しっかりと個性性に合わせた援助を考えることです。色々な勉強があつて大変ですが、私は何故かと言葉では上手く説明をすることはできないけれど「看護」が好きなので、この一年間頑張つてこ

れたと思います。何度なくけそうになりましたが、周りの友人やクラスメイト、家族、先生方に助けられ現在の私が居ると感じています。

二年生になると、約半年間実習です。これからは、自分の力で学習に取り組んでいかなければいけないので不安でいっぱいですが、これまで学んだ知識・技術を活かし、看護学生として責任ある態度でよりよい援助を実践できるよう努力していきたいです。



看護第一科

一年を振り返って

3期生 二学年 大野 陸

この一年は、とても充実した一年になった。入学式で今のクラスの仲間に出会い、女の子の多さに驚いたのを今でも覚えている。宿泊研修では、改めての自己紹介、レクリエーションを通しクラスの仲を深めた。この頃からテストや学内実習も始まり、看護師生としての自覚もでてきた。私たちにとって初めての実習となった基礎看護学実習Ⅰでは、実際に患者と接することで普段学びきれないコミュニケーションのとり方など学ぶことができた。次の基礎看護学実習Ⅱでは、三週間実習となり、看護過程のアセスメントができるよう一層努力していきたくと思う。

一年を通して、看護師になるには日々の積み重ねが大事だと改めて感じた。これからも仲間と協力し、看護師を目指して努力していきたいと思う。



継続しておこなう大切さ

2期生 二学年 高見莉香子

二年生後半となり、三か月続いた実習も終了することができた。私は実習から、援助や関わりの中で、個別性を考えておこなう大切さを学んだ。患者さんの自立度から、介助しすぎるのではなくセルフケアが保てるようにすることや、また訴えることができない患者さんへの清潔援助では、苦痛や冷感を与えないよう、「気づき」が大切であると学ぶことができた。

二年生になってからは、初めて経験することも増えた。初めて実施する技術は、苦手意識が強く不安も大きかった。しかし、継続しておこなう事で、苦手な事も好きなことに変化する事に気づいた。悩みながらも、学校生活を続けてきたからこそ今の自分がいて、頑張れたのは仲間がいたからではないであろうか。

卒業までには、辛い事や乗り越えなければならぬ困難が待ち受けているだろうが、二学年のスローガンでもある、笑顔で助け合う気持ちを持ち、クラス全員で卒業したいと強く願っている。



卒業にあたつて

1期生三学年 元島 慈

看護学校で過ごした三年間はあつという間で、楽しかったことや嬉しかったこと、大変だったこと、学校生活の全てが思い出です。実習では、患者さんに沿う看護を考え行ってきました。その援助で悩むこともあり、また毎日の記録におわれ大変なこともありましたが、自分の行った援助で患者さんから「ありがとう」の言葉や笑顔が見られたときは、もっと患者さんに合った援助を行っていき



卒業にあたつて

1期生三学年 平井奈津子

三年間看護についての知識と技術を学び、そして看護に必要な心を身につけてきました。知識技術では入学時から授業を通して点で学んできた事が、実習を重ねるごとに線となり自身の知識を深めてきました。また、看護は人間対人間で行うもので、人に対する心や態度を多

いと思いがんばることができました。悩んだときにはクラスメイトの励ましや先生方。指導者からアドバイスをもらい実習を乗り越えることができました。この三年間で、看護の知識・技術を身につけ、実習で悩んだり努力した分、成長することができたと思います。私は、不安を持つ患者さんに少しでも安心してもらえるように笑顔で接し、心配りもできる看護を行っていきたいと思います。そして、常に知識・技術を身につ

くの方から学びました。教員からはもちろんですが臨床指導者や実習で受け持たせて頂いた人生の先輩である患者さんからも、気持ちに寄り添った看護の大切さを学ばせて頂きました。この三年間で私自身は大きく変わり成長できたと感じます。それも私を支えてくれた駒沢の教員、一緒に学んできたクラスメイト、そして家族がいたから今の自分があると思います。卒業後、看護師として社会に出る事になりますが、自分の目指す看護師像である「人の気持ちに寄り添う」看護ができるよう、初心を忘れず日々学び成長して行きたいと思っています。



学友会 活動紹介

「学友会活動について」

保育科 二年 田川 絢華

学友会では、主に保育現場で行われている行事の企画や運営を行っています。春はひなまつり、豆まき、遠足、冬にはクリスマスマスの環境構成やもちつきを行いました。昨年の春には旭山動物園へバス遠足を企画しました。保育園でも必ず行われる行事ですので実際の子どもの様子や姿を想像し、子ども達がわかりやすく、見やすい「しおり」制作をしました。また新入生との交流を深めること、みんなの楽しい思い出となることを目標にしました。しおりは動物達の絵を描き、色をつけ工夫をし制作、また新入生と交流するため班分けレクリエーションの企画もしました。当日はとても楽しく新入生と交流を深めることができた無事終わることが出来ました。これからも学友会役員が協力しあい、みんなが楽しめるような企画、運営をしていき、よりよい学校生活を送っていきけるように頑張っていきたいです。

「学友会活動を通して」

看護第二科16期生 学年 山家 健太

学友会では、主に学校行事の企画・運営を行います。昨年は新入生歓迎会やスポーツ交流会などの学校行事に参加しました。今まで行事を企画・運営することの少なかった私達にとっては初めて経験することが多く、不安や苦労した面もありましたが、学友会の先輩達のアドバイスやクラスメートの協力もあり、

「学友会としての達成感」

看護第一科2期生 二年 鈴木ありさ

どの行事も心に残る良い思い出となりました。特に、スポーツ交流会では、どの種目も盛り上がり、先輩達のチームワークの良さに圧倒されながらもクラスが一致団結する事ができ、充実感を得ることができました。日々の勉強や実習などで心身共に疲れている人も少なくないと思います。その中で、行事に参加することによって気分転換やストレスを発散し、先輩・後輩の交流が深まるような時間をつくる事も学友会の役目の一つだと思っています。今後は四月に入学してくる十七期生と共に、有意義な学校生活が送れるよう努めていきたいと思います。

今回一年次に引き続き、二度目の学友会として前回の経験を生かしながら、看護学生全員が「楽しく、思い出に残る行事」を目標に取り組んできた。

新入生歓迎会、スポーツ交流会、実習激励会を行ってきたが、新入生歓迎会は学友会として初めての行事であり、事前準備の不十分さや、本番当日の緊張で学友会の連携が上手く回れず、時間通りに進行出来ないなど様々な失敗があった。しかし、この失敗を活かし、スポーツ交流会、実習激励会と行事を重ねることに目標に近づく行事となった。また、学友会として初めて仕事に就く一年生とも仲間意識が深まり、全員が協力して取り組む事が出来た。今年度最後の学友会行事である一期生を送る予餞会は、今までの行事の中で一番楽しく、思い出に残る行事になるよう取り組みたい。

先生 一言

「看護教育の場に

ふたたび」

看護第一科 吉野 悦子



私は、四年ほど前まで看護学校の専任教員をしており、その後、今春まで臨床で看護師として働いていました。今回、ご縁があり、当校で働くこととなり、ふたたび看護教育の場に戻ることにになりました。

今年を振り返りますとあつという間で、経験があるとはいえ、三年の学生の名を憶えるのは至難の業で、学生にはいまだに名前を尋ねることがありますが、学生たちは、笑顔で応えてくれます。学生の若さはいつもパワフルで圧倒されることが多いですが、学生の個性を大切にしながら、看護について一緒に考えていきたいと思っています。そして、実習にて患者・家族と真摯に向き合い、悩み考えている学生と接し、その成長の一手助けになればと思っています。日々です。

新しい職場のシステム等に慣れるには、まだまだ時間がかかると思いますが、看護教育の場を楽しみながら、学生とともに成長していきたいと思っています。

「初めてと出会う
経験を通して」

看護第二科 田中 悦子



会人として個人の力が試されます。当校で学んだ事を土台にして自分を発揮し、より多くの初めての事に出会って取り組むことで、自信をつけて行つて欲しいと願っています。

「3年間の実習を
振り返って」

看護第一科 八戸 明美



看護第一科が開設されて三年が経ち、初めての卒業生を送り出すことになりました。実習調整者という役割をいただき、当校の理念に基づき、臨地実習の詳細を形作っていくのは、苦労もありましたが、学生達が臨地実習での学びを積み重ね、日々成長していく姿をみて、私も達成感でいっぱいです。

特に一期生は、学校として初めて取り組むことが多く、教員が十分検討を重ね臨地実習の運営に臨んでも、実際には臨床のご意見も伺いつつ、模索しながら実習を展開していました。学生からは、「私達は一期生だから、実験みたいなところもありますよね」と言

われることもあり、実習に関して熟慮を重ねていても、学生にこのような思いを抱かせていることに心が痛みました。しかし、学生達からは、建設的な意見をたくさんもらい、学生自身が創意工夫してくれていました。最後の看護統合実習を終えたある学生から、「後輩が看護学校に進学するので、うちの学校を薦めました」と話してくれ、今までの胸の痛みがすーと癒えていきました。三年間の実習を有意義なものにできたのは、臨地で実習指導に携わっていたいただいた方々のご尽力と学生自身の努力の賜物に他なりません。学生達がほんの少しでも「この学校で学んでよかった」と思ってくれていれば、本当にうれしく思います。私達教員も一期生、二期生、三期生と実習の実績を重ね、学生達の多くの意見を大切にしながら、より学び多い、充実した実習となるよう努めていきたいと思っています。

学生達は素直な心で真摯に患者さんに向き合い、時に死を看取り、患者さんの痛みや苦しみに涙すること、看護の厳しさに直面し、一人の人間として大きく成長していきます。豊かな現代社会の中で、看護師を志す貴重な後輩である学生達が、希望の多い未来へと向かえるよう、ささやかですが、精一杯サポートしたいと思っています。

平成25年度 学 生 募 集 要 項 看護第一科(昼間3年課程)

出願期間及び選考日時・合格発表	出願形態		試験日	出願期間	選考方法	試験会場	合格発表
	指定校推薦入試 一般推薦入試		平成24年 12月上旬 (予定)	平成24年 11月下旬 } 平成24年 12月上旬	(1)面接 (2)小論文	駒沢看護保育 福祉専門学校 看護科校舎 〒068-0029 岩見沢市 9条西3丁目1-15	平成24年 12月中旬
	一般入試 社会人入試	一次	平成25年 2月中旬 (予定)	平成25年 1月中旬 } 平成25年 2月上旬	(1)国語総合(古文・漢文除く) (2)英語Ⅰ・Ⅱ (3)数学Ⅰ・A ※社会人は(1)のみ。(2)(3)は免除		平成25年 2月中旬
		二次	平成25年 2月下旬 (予定)	面接(一次合格者のみ)			平成25年 2月下旬

出願期間及び選考日時、合格発表